

Press Release



2018年1月12日
トランスコスモス株式会社

トランスコスモス、ヒューマンビートボックスーDaichi 監修アプリ第3弾 「Beat Box OrchestAR(ビートボックスオーケストラ)」をリリース

ハイクオリティな撮影から編集まで、モバイル AR の技術を用いたアプリ開発を提供

トランスコスモス株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長兼 COO:奥田昌孝)は、株式会社吉田正樹事務所(本社:東京都港区、代表取締役:吉田正樹、以下、吉田正樹事務所)と共同で、吉田正樹事務所に所属し、国内外で広く活躍するヒューマンビートボックスーDaichi 監修のスマートフォンアプリ「Beat Box OrchestAR」(ビートボックスオーケストラ、以下、ビートラ)を開発し、1月12日より配信を開始しました。



ヒューマンビートボックスとは、楽器を一切使わず自分の口から出す音だけで音楽を奏でるパフォーマンスです。ドラムの音だけを表現するボイスパーカッション(ドラム)に加え、スクラッチ、ベース、クラップ、ノイズ、など、さまざまな音を織り交ぜ音楽を完成させます。ヒップホップ文化の黎明期から生まれたスキルで、ダンスバトルのように技を競いあって楽しむことができます。

トランスコスモスはこれまでDaichi 監修のアプリとして、「Human Beat Box GAME」、「Human Beat Box LESSON」をリリースしています。第3弾となるビートラでは、より多くのユーザーに楽しんでいただくために、特殊なデバイスを使うことなくスマートフォンだけでAR体験が可能なモバイルAR技術を活用して開発しました。マーカー(楽器カード)をDaichi公式HPからダウンロードし、プリントアウトしたマーカー(楽器カード)にスマホカメラをかざすとDaichiが出現し、さまざまな楽器を演奏するDaichiの組み合わせを変えながらPLAYを楽しむことができます。

■マーカー(楽器カード) ※一部抜粋



■PLAY 中イメージ



▼マーカー(楽器カード)のダウンロードはこちらから
<http://daichibeat.jp/beatboxorchester.html>

■ビートルの特徴

1. 複数コンテンツが連携

一般的なARアプリの多くは1 マーカーにつきひとつのオブジェクトしか表示できませんが、ビートルでは複数のマーカーを同時に認識し、マーカーにひもづく音と映像を同時に表示することによって作曲を楽しむことができます。

2. 表示アングルを自動調整

スマホカメラでマーカーを読み取ってスマホのスクリーンに映し出される AR 映像を確認しつつ、さらに手でマーカーを追加したり減らしたりしながらプレイするというダイナミックな遊び方がビートルの醍醐味。そこで肝となるのが表示される AR 映像の角度です。プレイ中に手でマーカーを整列させるのは難しく、ラフなマーカー操作でも安定した AR 映像を表示するためにチューニングを重ね、どの角度からマーカーにカメラを向けても、表示される AR 映像が安定してカメラに向くようにこだわっています。

3. シームレスなサウンド表現

ビートルでは複数のマーカーをリアルタイムに組み合わせを変えながらプレイするため、音のつなぎ目をなくす必要がありました。そのため、短い音声でもつなぎ目なくループ再生させることや、複数音声の再生ポイントを最適なタイミングで重ね合わせて調和を生み出すチューニングにこだわり、「夢中でプレイできる AR アプリ」を実現しました。

■アプリ概要

対応 OS: iOS/Android

対応端末: Android5.0 以上/iOS11.0 以上

ダウンロード URL: App Store: <https://itunes.apple.com/jp/app/beat-box-orchestral/id1311209149?mt=8>

Google Play: <https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.co.transcosmos.bbocar>

価格: 無料 (アプリ内課金あり)

近年スマートフォンの性能向上と、Apple・Google のような巨大プラットフォームによるモバイル AR の参入など、モバイル AR を取り巻く市場が急速に拡大しています。トランスコスモスでは、さまざまな業界でニーズが高まるモバイル AR の技術をお客様企業にも提供していきます。また 2017 年 4 月に開設したクリエイティブ撮影スタジオ「STUDIO COMPASS(スタジオ コンパス)」には本格的な撮影・照明機材を導入しており、専門スタッフによるハイクオリティな撮影・編集が可能です。アプリ開発はもちろん、AR 用の素材制作まで一気通貫で対応します。今後はクロマキー動画を活用した AR サービスをカタログ、EC、リアル店舗におけるソリューションとしても提供します。またその他の AR 技術にも対応し、お客様企業のビジネス拡大を支援していきます。

■ヒューマンビートボックスー Daichi プロフィール

楽器を一切使わず、口から 50 種類以上の音色を出すことができ、さらにはリズムとメロディーを同時に奏でることができる。10 歳の頃から独学でヒューマンビートボックスを始める。18 歳の頃、自宅で撮った動画を YouTube にアップしたところ、全世界から注目を浴びる。現在 YouTube チャンネル登録者数は 111 万人以上。総再生回数は三億回を超える。(2018 年 1 月現在)

2012 年、ニューヨークの名門ライブハウス「アポロシアター」が主催する大会・アマチュアナイトにて日本人ミュージシャン初の年間 3 位入賞を果たす。Boyz II Men Japan Tour のオープニングアクト、「SMAP × SMAP」での SMAP とのコラボや、YouTube にて発表した“口だけあまちゃん OP テーマ”等で話題を呼んでいる。SUMMER SONIC、COUNT DOWN JAPAN、Star Fes 等、国内外の音楽フェスに出演。マイク 1 本で行うビートフルなパフォーマンスや、ループステーションを使ったオリジナルミュージックでフロアを踊らせる。



※トランスコスモスは、トランスコスモス株式会社の日本及びその他の国における登録商標または商標です
※その他、記載されている会社名、製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です

(トランスコスモス株式会社について)

トランスコスモスは 1966 年の創業以来、優れた「人」と最新の「技術力」を融合し、より価値の高いサービスを提供することで、お客様企業の競争力強化に努めて参りました。現在では、お客様企業のビジネスプロセスをコスト削減と売上拡大の両面から支援するサービスを、アジアを中心に世界 33 カ国・177 の拠点で、オペレーショナル・エクセレンスを追求し、提供しています。また、世界規模での EC 市場の拡大にあわせ、お客様企業の優良な商品・サービスを世界 49 カ国の消費者にお届けするグローバル EC ワンストップサービスを提供しています。トランスコスモスは事業環境の変化に対応し、デジタル技術の活用でお客様企業の変革を支援する「Global Digital Transformation Partner」を目指しています。(URL: <http://www.trans-cosmos.co.jp>)

報道関係者お問い合わせ先

トランスコスモス株式会社 広報宣伝部 富澤 Tel:03-4363-0123 Email: pressroom@trans-cosmos.co.jp